

「第1回創造的観光国際フェスティバル」 (ロシア連邦・ハバロフスク市) 報告

ERINA 特別研究員 鈴木伸作

創造的な観光をテーマにした観光産業の振興と発展を目指して、8月30日～31日の2日間の日程で、観光フェスティバルがハバロフスク市で開催された。筆者は、同時開催の観光フォーラムでの発表の機会を得た。フェスティバル及びフォーラムの概要を報告する。

第1回国際フェスティバルはハバロフスク地方政府が主催し、ロシア連邦政府観光局の後援で開催された。フェスティバルの開催目的は、観光分野における新しいスタイルの観光モデルを創造・発掘し、ロシアと環太平洋諸国との余暇愛好家や観光客の交流の場を提供するとともに、そのプラットフォームの役割を果たすことである。

ロシア極東地域の海外旅行者は年々増加し、特に中国や韓国、日本等の隣国やシンガポール、タイなどの東南アジア地域へ定期便やチャーター便などを運航し、活況を呈している。なかでも、今年1月にノービザとなった韓国への旅行者は急激に増加し、航空チケットが取れない状態が続いているという。

しかし、航空機便数や航空路が増加する一方で、ロシア極東への外国人観光客数はあまり変化してない状態が続いている。特にAPEC開催を契機に大きなスポットライトを浴び、海外からの観光客が増加し、国際的観光都市となりつつあるウラジオストク市に対して、ハバロフスク市は遅れをとりつつあると言われている。また、世界的な生活水準の向上による海外旅行志向が一段と高まる中、ハバロフスク地方としては新たな観光イベントを開催し、内外から

の観光客の誘致につなげたいという強い期待が今回の試みにある。

この観光フェスティバルは「創造的な観光の発展」をメインテーマにした国際会議と、市内各所で分散して開催された文化展示会、スポーツ競技、美術・アート展、芸術、映画祭、食等のイベントで構成され、各会場に多くの市民や関係団体が集まる参加型のイベントとなった。

観光フォーラムは、ハバロフスク市の保養地として知られている観光拠点の「ザイムカ」で開催され、ロシア政府観光局代表、ハバロフスク地方政府代表の開会挨拶のあと、ハバロフスク地方政府、ハバロフスク地方と姉妹関係の黒龍江省観光局、日本、サハ共和国や沿海地方をはじめ、極東地方の観光担当者、研究機関、旅行者12名による発表があった。

日本からは、新潟県知事政策局参与の前田奉司氏と筆者が出席し、発表した。前田氏は「新潟・ハバロフスク都市間交流をベースにした観光発展のための日ロ協力について」と題し、日ロ間のこれまでの都市間・地域間交流の歴史や地理的優位性、ネットワークを活かした新たな日本人観光客の増加策についての提言や、新潟県の四季を通じて楽しめる観光やイベントを紹介し、会場の関心を呼んだ。

筆者は「日本とロシア極東地域との地域間観光交流の発展への提言」と題し、日本と極東地域との観光交流の問題点と改善すべき対策について発言した。特に、整備が遅れているホテルや観光施設、食事、観光客へのホスピタリティ



やサービスの欠如、飛行機内サービスや遅延・休航時の対応などの問題等を指摘し、行政を中心とした観光・旅行関係者の現状認識と改善への連携と協力による対策の緊急性と必要性に言及した。

改善の一つの方策として、日本国内の県や市町村単位で組織されている観光協会をモデルに、行政が中心となり、旅行社、ホテル、交通機関など観光関係者が観光振興策を打ち出し、事業展開する仕組みや活動を紹介した。

市内各所において開催された関連イベントについても、フォーラム参加者は視察することができた。フォーラム会場となったザイムカ会場では、民族や地方食の紹介コーナー、在口韓国関係者の歌と踊り、地元合唱団の歌とダンスの公演が行われ、文化的行事がメインであった。また、

アムール河畔の広場には土産品店や飲食ブース、工芸美術体験コーナー、音楽公演などがあり、大勢の市民で賑わっていた。そのほか、市内中心の広場では砂の彫刻展に人気が集まり、市内映画館では登山や川下り、狩猟、スポーツ、自然観察、アドベンチャー等を映像化し、新しい体験型観光を提案する、ハバロフスク地方で制作された映画観賞会が制作者とともに紹介された。

ハバロフスク地方政府はこの事業を来年度も企画しており、市民はもとよりロシア極東地方各地と海外からの観光客の誘致につなげたい考えだ。ロシアが各地で特色ある地域イベントの開催を通じて観光客誘致に積極的に動き出し始めている状況を知るとともに、ロシア極東内の地域間競争が始まっている様子も今回の訪問で実感した。